

南アフリカの図書館

—ローズ大学コーリー図書館を中心に—

北川 勝彦

筆者は、本『図書館フォーラム』第15号（2010年）で、「南アフリカの図書館と文書館」と題する一文を寄稿したことがあった。その中で取り上げたのは、ブレントハースト図書館（Brenthurst Library）、スタンダード・バンク文書館（Standard Bank Archives, Standard Bank Heritage Centre）、ケープタウン文書館（Cape Town Archive Repository）、キリー・キャンベル・アフリカーナ図書館（Killey Campbell Africana Library, Campbell Collection）であった。本稿では、昨年（2012年）9月に18世紀と19世紀における南アフリカのプラント・ハンターの調査のために利用した東ケープ州グラハムズタウンにあるローズ大学（Rhodes University）コーリー図書館（Cory Library for Historical Research）について紹介する。本図書館の利用については、同大学歴史学部のポール・メイラム教授（Paul Maylam）をはじめライブラリアンの皆さんの多大なご助力をいただいた。

1 ローズ大学の成り立ち

さて、ローズ大学は、南アフリカ共和国の東ケープ州にあるグラハムズタウンに位置しており、1904年に設立された。グラハムズタウンは、インド洋岸のポートエリザベスの町から車で1時間ほど内陸に入ったところにある。この大学は、東ケープ州の大学のなかでもっとも古い大学であり、南アフリカ国内でもケープタウン大学（1829年設立）、ステレンボッシュ大学（1866年設立）、ウィットウォーターズランド大学（1896年設立）、フリーステート大学（1904年設立）に次いで古い大学である。ローズ大学は、1904年にイギリス帝国建設者として知られたセシル・ローズ（Cecil John Rhodes）にちなんで設立されたローズ・トラスト（Rhodes Trust）の寄付によってローズ・ユニバーシティ・カレッジ（Rhodes University College）として創立された。この大学は、1918年には南アフリカ大学（University

of South Africa）のカレッジとなったが、1951年に独立した大学となっている。

グラハムズタウンに大学を設立する提案書は、アングロ・ボーア戦争の終結した年にあたる1902年に出されたが、東ケープで辺境の戦争が続き、資金難となり、提案は実現しなかった。1904年、リンダー・ジェームソン（Leander Jamson）はローズ財団から大学に5万ポンドの資金を拠出し、この基金でローズ・ユニバーシティ・カレッジが設立されたのは1904年5月31日であった。東ケープにおけ



1898年のハイストリート
(出所 http://en.wikipedia.org/wiki/Rhodes_University)



現在のローズ大学キャンパスの正門（筆者撮影）



正門をくぐりぬけた正面の学舎（筆者撮影）

る大学教育は、四つの学校で始まった。すなわち、セントアンドリュー（St. Andrew's College）、ジル（Gill College, Somerset East）、グラーフ・ライネット（Graaff-Reinet College）、グレイ・インスティテュート（Grey Institute in Port Elizabeth）である。セントアンドリューの4人の教授たち、すなわちアーサー・マッシュューズ（Arthur Matthews）、ジョージ・コーリー（George Cory）、スタンレー・キッド（Stanley Kidd）、G. F. ディングスマンズ（G. F. Dingemans）がローズ・ユニバーシティ・カレッジの創立時の教授となった。

1905年、ローズ大学はドロツディ（Drotsky）の建物に移転し、1918年にローズ大学は新生の南アフリカ大学を構成するカレッジとなっている。第二次世界大戦後の1947年に南アフリカ大学の将来が検討されたときに、その検討過程でローズ大学は独立した大学となった。

かくして、1951年3月10日、ローズ大学は独自の道を歩み始めた。セルマー・シオンランド（Selmar Schonland）の息子であるバジル・シオンランド（Basil Schonland）が初代理事長となり、トーマス・アルティ博士（Thomas Alty）が初代学長となった。アリスに近いフォートヘアのユニバーシティ・カレッジは、私的な取り決めではローズ大学に帰属していた。この互恵的な取り決めは1948年に成立した国民党政府がアパルトヘイトの下でフォートヘアをローズから切り離す決定を下すまで続いた。ローズ大学側はこのような分離政策に対して、また大学教育隔離法にも反対したが、結局は法案が認められ、1959年に両大学の関係は終了した。1963年には、ジェームズ・ヒスロップ（James Hyslop）がアル

ティの後を継いでいる。

2 コーリー図書館とコレクション

コーリー図書館は1931年に創立された。ジョージ・エドワード・コーリー（George Edward Cory）は、ローズ・ユニバーシティ・カレッジの最初の化学の教授であったが、退職時に同大学の図書館に個人のコレクションを寄贈した。コーリー教授は、化学分野での学問的貢献に加えて、南部アフリカ史に強い関心を示し、この分野の熱心な研究者として長年にわたって研究を続けてきた。彼の研究は、『南アフリカの興隆』（*The Rise of South Africa, 1910-1939*）と題する膨大な著作の出版で広く知られている。これに伴って彼は南アフリカ史学史において卓越した地位を得たのである。この研究を遂行するにあたって、コーリー教授は大量の史料を収集しているが、その中には単行本、パンフレット、個人の手稿（日記や手紙類）、写真、地図、新聞などがあり、これらが現在のコーリー図書館の中核を占める史料となった。

コーリー教授のコレクションの中には、彼の書き残した62名の黒人と白人の年長者との「会話」記録が含まれている。これらの会話記録は、広くは南アフリカ全般、個別적으로는東ケープの辺境に関する歴史について知るには重要な史料である。コーリー教授がこうした会話記録を残したのは、個人の記憶が古い建物や古い文書と同じように消滅してしまう



ジョージ・エドワード・コーリー
（出所 <http://www.ru.ac.za/corylibrary>）



コーリー図書館の正面入口（筆者撮影）

ことを懸念していたからであった。しかし、彼は同時に自らの著作の中で使用した史料に歴史研究の新しい源泉を見出したと言える。すなわち、彼らとの会話を記録することで、こうした人々に「声」を与えることができた。そうでなければ、彼らの「声」はコーリー教授の世代以外には聞かれることが決してなかったからである。コーリー教授は偶然オーラル資料の価値に出会ったといえるかもしれないが、彼こそオーラル・ヒストリーの分野において南アフリカのパイオニアの一人といってよいであろう。これらのインタビューはバーニング（J.M.Berning）によって編集され、*The historical “conversations” of Sir George Cory* と題してグラハムズタウンの歴史書シリーズの一冊として出版されている。

ところで、コーリー図書館では、上記のコーリー教授のコレクション以来、東ケープおよびグラハムズタウン自体の史料だけでなく、レソトや広く南部アフリカ史の史料が収集されてきた。その中には、コーサ人に関する史料、ミッションと教会の歴史、教育史、鉱山業史、商業史、農業史の史料が含まれている。これらの詳細は、*Guide to the Cory Library Card Catalogues* に譲る⁽¹⁾。また、コーリー図書館の主要なコレクションとしては、以下のものがある。ラブデールコレクション（Lovedale Collection）、南アフリカメソヂスト教会文書（Methodist Church of South Africa Archives）、南アフリカ金鉱会社コレクション（Gold Fields Collection）、ローズ大学文書（Rhodes University Archives）、ジョージ・コーリー教授スライド（Sir George Cory Slides）、南部アフリカラウンドテーブル協会（Association of Round Tables of Southern Africa）である。以下で

は、このうちラブデールコレクション、南部アフリカメソヂスト教会、南アフリカ金鉱会社の各文書について簡単に紹介しておこう。

(1) ラブデールコレクション（Lovedale Collection）

ラブデールコレクションは、1961年にスコットランド自由教会の宣教協議会（Mission Council of the Free Church of Scotland）によって収蔵されていたものである。このコレクションから、ラブデール出版（Lovedale Press）を含むラブデール宣教協会（Lovedale Mission Institution）の歴史全般を知ることができる。

ラブデール宣教協会は、グラスゴー宣教協会（Glasgow Mission Society）によって1841年にアフリカ人のための高等教育の場として設立された。ラブデールの名称は、グラスゴー宣教協会の初代会長ジョン・ラブデール博士にちなんでつけられたものである⁽²⁾。

ラブデール出版は、1823年にグラスゴー宣教協会のジョン・トス（John Toss）の下でチュミー宣教基地（Chumie Mission）で設立された。この出版社は、1834～35年のフロンティア戦争の最中に破壊された。そこで1839年に第二の出版社が設立されたが、これもWar of the Axe（1846-47）の中で破壊された。今日のラブデール出版は、1861年から再開されたものである。

ラブデール出版は、宣教活動の促進手段として、南アフリカの黒人の教育に向けて一歩踏み出すために設立された。また、この出版社は、南アフリカの黒人作家が自らの著作を刊行するための手段となっただけでなく、アフリカ人の文学作品を印刷出版した先駆者となった。加えて、この出版社は、黒人たちが印刷や製本の技術訓練を受ける場ともなった。

ラブデール出版はキリストの福音と教育の教材を出版することを主たる業務としていた。初期のプロジェクトの一つは、バイブル（聖書）のコーサ語への翻訳であった。この出版社の初期の出版物の中には賛美歌集、学校の読本、他のキリスト教会派の文学が含まれていた。

ラブデール出版のコレクションの中には多くの著名な黒人作家の手稿や作品が含まれている。たとえば、ジョーダン（A. C. Jordan）、ドロモ（H. I. E. Dhlomo）、ジャバブ（D. D. T. Jabavu）、ジョロベ（J. J. R. Jolobe）、ムカイ（S. E. K. Mqhayi）、ンダウォ（H. M. Ndawo）、バニ（A. Z. Hbani）、プラーツェ（S. T. Plaatje）、

シンコ (G. B. Sinxo)、ソガ (T. B. Soga)、スワートボーイ (Victoria Swaartbooi) がいた。

(2) 南アフリカメソヂスト教会文書 (Methodist Church of South Africa Archives)

コーリー図書館は、南部アフリカメソヂスト教会の文書の公式の管理機関になっている。この文書の中には、南部アフリカにおけるメソヂスト教会運動に関連した資料と19世紀初期以降の各種の文書資料が含まれており、手稿類(手紙、日記、会議記録、メモ、新聞切り抜き、スクラップブック、登録簿、財政書類、洗礼ないし個人記録、絵と写真)も多数含まれている。こうした記録に加えて、メソヂスト宣教師個人の日記、他の書類や印刷物がある。たとえば、Wesleyan Missionary Notices, Wesleyan Methodist Missionary Society's Report, British and South African Conference Minutes, South African Christian Watchman が収められている。この文書資料には、ロンドンのメソヂスト宣教協会アーカイブに収蔵されている記録のマイクロフィルム版が含まれている。

このような包括的なコレクションの構築は、南アフリカメソヂスト教会の記録を収集し始めた人物に多くを負っている。すなわち、ウィリアム・イブレイ (William Eveleigh) と彼の後継者たちは、メソヂスト教会の貴重な記録を持続的に収集し、保管してきた。ウィリアム・イブレイの死後、彼が精力的に収集したアフリカーナの資料の散逸が恐れられ、メソヂストの文書館を設立する動機となった。レスリー・ヒューソン教授 (Leslie A. Hewson) は、当時、ローズ大学の新約聖書研究の担当者であり、リビングストンハウス (Livingston House) の管理者であったが、1948年、メソヂスト会議で文書保管担当者として任命された。同年にはメソヂスト歴史協会 (Methodist Historical Society) が設立されている。

このコレクションは、当初、ローズ大学のリビングストンハウスに収蔵されていたが、収書数も増大し効率的な管理が困難になり、1965年にメソヂスト会議はこのコレクションをローズ大学コーリー図書館に移転することを決定した。この移転は、南部アフリカメソヂスト教会とローズ大学の間で調印された合意文書 (Memorandum of Agreement) で公式なものとなり、以後、これに基づいて教会の記録はすべてローズ大学に収められている。現在、

メソヂスト文書館は、大量の包括的なコレクションとなり、これによって南部アフリカのメソヂスト教会の活動と歴史を知ることができる。その網羅する地域は、南アフリカだけでなく、ジンバブウェ、ザンビア、スワジランド、レソト、ボツワナ、ナミビアに至る⁽³⁾。

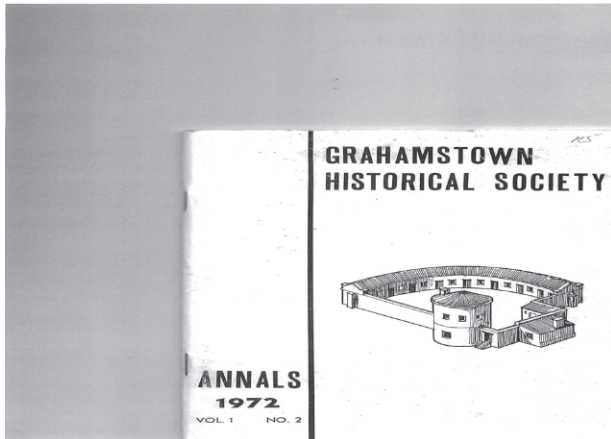
(3) 南アフリカ金鉱会社コレクション (Gold Fields Collection)

このコレクションは、南アフリカ金鉱会社 (Gold Fields of South Africa Ltd.) からコーリー図書館に寄贈されたものである。

この会社に関する文書は、1944年以後、ローズ記念図書館・博物館 (Rhodes Memorial Library and Museum) の中に収集されてきたものであった。この記念図書館・博物館が設立されたのは、同社とその子会社、ローズとラッドとカルデコットのシンジケートの後継企業の歴史をカバーするためであった。とくにセシル・ローズの研究に資するためであった。この文書館の設立は、同社の60周年記念が近づいてきたときにもちあがり、ボーデン (F. C. M. Bawden) 氏自らが、1968年に他界するまで最初から図書館の求めで活動し、金鉱会社とその子会社の記録をまとめコレクションとして構築して、今に至っている。

金鉱会社のコレクションの最初の部分は、1976年に南アフリカ金鉱会社によってコーリー図書館に寄贈された。ローズ大学で収蔵されるコレクションについての最初の交渉は後にローズ大学の理事長となった金鉱会社社長のウィリアム・ジョン・ブショー (William John Busschau) 博士によってはじめられた。その後、新たな資料が時折コーリー図書館に寄贈され、元の資料に加えられていった。この中には、金鉱会社のジンバブウェ (旧ローデシア)、ブラワヨ支店からの文書資料が含まれている。この記録は、1948年にブラワヨ支店が閉鎖されてからコーリー図書館に移管された。それに続いて、金鉱会社の資料の中にはロンドンの統合金鉱会社 (Consolidated Gold Fields) によって保管されていた南アフリカ金鉱会社の南アフリカ側の記録が含まれている。

この金鉱会社資料のコレクションは、文書類、手稿類、地図、計画書、事件記録のメモ、写真、パンフレット、金鉱会社の設立時および初期の時代の関連資料から構成されている。手稿類の中には、金鉱



グラハムズタウン歴史研究会の雑誌

会社とその子会社の歴史、公式記録、ノート、信書控えがあり、私的な通信（ローズ Rhodes, ラッド C. D. Rudd, バーケンルース E. J. Burkenruth, シュライナー Oliver Schreiner, キプリング Rudyard Kipling との手紙のやりとり）がふくまれている。また、膨大な写真（鉱山、設備、工夫、ローズ）がある。書籍のコレクションには、セシル・ローズに関する研究、トランスバール、ジンバブウェ、その他のローズや金鉱会社が関与した地域の歴史書がある⁽⁴⁾。

このように金鉱会社コレクションには、南アフリカ鉱業史、金融史、経済史に関するもっとも完全な手稿類と文書類が残されている。このコレクションは、また、両大戦間期、第2次世界大戦後、をカバーしており、南アフリカ経済に対する不況のインパクトについて洞察をえることができる。

南アフリカには数多くのローカルヒストリーの研究会（上図はグラハムズタウン歴史研究会の雑誌の表紙）だけでなく、各種の文書館や図書館が設置されている。今後、筆者の取り組もうとしている南アフリカの社会経済史の研究においては、これらの図書館や文書館の調査研究が不可欠である。近い将来機会があれば、以下の文書館ないし図書館の調査に当たりたいと考えている。クワズールーナタール州では、クワズールーナタール大学ピーターマリッツバーグ・キャンパスのアラン・パットン・センター（Alan Paton Centre and Struggle Archive）、デビッド・ドン（David Don）のコレクションを収蔵しているドン・アフリカーナ図書館（Don Africana

Library）、ハウテン州ではウィットウォーターズランド大学にあるウイリアム・カレン図書館（William Cullen Library）、東ケープ州では今回の調査で訪問できなかったフォートヘア大学にある解放運動文書館（Liberation Movement Archive）とハワード・ピム稀観本図書館（Howard Pim Library of Rare Books）などである。日本におけるアフリカニスト史家がこれらの南アフリカの史料にアクセスして、優れた研究成果を発表する日も近いであろう。

注

- (1) 主要なカタログとしては、Author/Title catalogue, Subject Catalogue, Manuscript and Document Catalogue, Grahamstown Journal Index, Grocott's Mail Index, Eastern Province Herald, Cape Monthly Magazine, Annals of the Grahamstown Historical Society, Rhodesian Index, Periodical Catalogue, Map Catalogue, Pictorial Catalogue, Eastern District Court and Salem Baptism, Methodist Obituaries, Church Registers, Cory Biographical Notes, Registers of Documentsがある。なお、ケープタウン大学の図書館の手稿および文書部門にはジェームズ・スチュアート文書（The James Stewart Paper）が収蔵されている。この文書は、1979年にラッセル・マーティン（Russell Martin）によって編纂されたものがレノックス・ゴードン（Lennox Gordon）博士とその夫人によってケープタウン大学図書館に寄贈されたものである。
- (2) 設立後の最初の100年間、ラブデール4人の校長（会長）が就任した。William Govan (1841-1870), James Henderson (1906-1930), Arthur West Wilkie (1932-1942), Robert H. W. Shepherd (1942-1944) である。
- (3) 大澤広晃「宣教師と植民地政治批判—19世紀ケープ植民地東部境界地帯におけるウェズリアン・メソヂスト宣教団の動向を中心に—」『歴史学研究』(890) 2012年3月を参照。
- (4) 南アフリカ金鉱会社については、北川勝彦『南部アフリカ社会経済史研究』関西大学出版部、2001年を参照。

（きたがわ かつひこ 経済学部教授）